

【3級・解説】

リスニング

PARTE IV (N11 – N13)

N11 b

【正答率】67.5%

F: Cos'hai nella mano?

M: Un regalo per te.

F: Un regalo? E che cos'è?

M: Indovina.

F: Come faccio a indovinare? Un... cioccolatino?

M: Buu! Sbagliato!

F: E dai, fammi vedere... Apri questa mano! Ooh! Ma... sono bellissimi!

M: Ti piacciono?

F: Da morire!

【訳】(女)手に何を持っているの？(男)君へのプレゼント。(女)プレゼント？何なの？(男)当ててみて。(女)どうすれば当てられるのよ？1つの.....チョコレート？(男)ブー！外れ！(女)ねえ、見せてよ.....。この手を開けて！ほら！まあ.....とてもきれい！(男)気に入った？(女)死ぬほど！

N12 c

【正答率】58.8%

M: Oh, anche per oggi abbiamo finito. Tu che fai, torni a casa? Vuoi che ti accompagni?

F: Grazie, Pietro, ma oggi sono in macchina anch'io. Prima di tornare voglio fare un po' di spesa al supermercato.

M: D'accordo. Beh, allora a domani.

F: Sì, a domani.

【訳】(男)おお、今日も終わったね。君はどうするの、家に帰る？良ければ僕が君を送ろうか？(女)ありがとう、ピエトロ、でも今日は私も車なの。帰る前に、スーパーで少し買い物をしたい。(男)了解。よし、ではまた明日。(女)ええ、また明日。

N13 c

【正答率】90.1%

M: Venga, signora, non stia lì a prendersi la pioggia, venga sotto il mio ombrello...

F: Oh, grazie, è molto gentile! Per fortuna ho trovato Lei, qui alla fermata, altrimenti mi sarei bagnata dalla testa ai piedi!

M: Si figuri! Che pioggia, eh?

F: Terribile, davvero! E l'autobus, come al solito, è in ritardo!

【訳】(男)来てください、奥さん、そこで雨に当たっていないで、私の傘の下に来てください……。 (女)おお、ありがとう、とてもご親切に！ 幸いにも、あなたがこの停留所にいらっしゃって、そうでなければ頭から足まで濡れていたでしょう！ (男)お気になさらないでください！ 何という雨でしょう、ねえ？ (女)ひどいですね、本当に！ そしてバスは、いつものように、遅れています！

PARTE V (N14 – N16)

N14 b

【正答率】62.5%

M: Che si fa domenica, Laura? Le previsioni dicono che pioverà. Se andiamo al mare, rischiamo di non poter fare neanche il bagno.

F: Beh, Federico, le alternative sono due: andare a mangiare una pizza, magari con Lara e Massimo, o restarcene a casa tranquilli.

M: No, dai, a casa no. Non mi va di restare a casa la domenica.

F: Beh, andiamo a mangiare una pizza, allora. E magari dopo andiamo al cinema, che ne dici?

M: D'accordo, ma noi due soli, però. Non ho voglia di vedere gente.

【訳】(男)日曜は何をしよう、ラーウラ？ 予報は雨が降ると言ってる。もし海に行くなら、海水浴もできない恐れがある。(女)それなら、フェデリーコ、選択肢は2つある。ピザを食べに行く、もしかしたらラーラとマッシモと一緒に、それとも静かに家でじっとしている。(男)嫌だよ、家は嫌だ。僕は日曜に家にいるのが好きではない。(女)それなら、ピザを食べに行く、ということね。そして、もしかしたら、その後で映画に行く、というのはどう？ (男)賛成、でも、やっぱり僕たち2人だけで。人に会う気がしない。

日曜、フェデリーコがしたいのは:

- a)家でじっとしていること
- b)ラーウラと2人きりで出かけること
- c)友人たちとピッツェリアに行くこと

N15 c

【正答率】56.3%

M: Ed ecco che torna in libreria uno dei nostri giallisti preferiti, con un nuovo, appassionante racconto ambientato in una Padova piena di misteri e tra le strette calli di Venezia. Un nuovo viaggio nel mondo del crimine, in compagnia di tre simpatici protagonisti alla ricerca di un bambino scomparso. Il finale vi lascerà... a bocca aperta!

【訳】(男)さて、いよいよ、私たちのお気に入りのミステリー作家の1人が、新しい、手に汗握る物語で——その舞台は、謎に満ちたパードヴァ、そしてヴェネツィアの狭い小道——を携えて、書店に戻ってきます。犯罪の世界の新しい旅に出て、3人の愉快的主人公たちと一緒に、消えた男の子を探しましょう。その結末に皆さんは……驚きで口が開いたままになるでしょう！この告知が話題にしているのは:

- a)パッケージ・ツアー
- b)旅行者のためのガイド・ブック
- c)新しいミステリーの本

N16 a

【正答率】22.6%

F: Hai visto quante case in vendita ci sono in centro? È incredibile!

M: Incredibile? Perché?

F: Si continuano a costruire palazzi in periferia e il centro è pieno di begli appartamenti, vuoti, che nessuno vuole comprare. Che senso ha?

M: Beh, è che in centro i prezzi sono troppo alti. Con dei prezzi più bassi, molta gente ci vorrebbe abitare.

F: Tu dici? Secondo me, no. I prezzi in centro sono alti, è vero, ma le case in periferia non sono molto più economiche.

【訳】(女)町の中心にどれだけ売り家があるか見た？信じられない！(男)信じられない？どうして？(女)郊外ではビルを建て続けているけど、町の中心は、空いていて、誰も買おうとしない、素敵なマンションで一杯なの。何

の意味があるの？(男)まあ、町の中心では値段が高すぎるということだよ。もっと低い値段ならば、多くの人がそこに住みたいだろうけど。(女)そう思う？ 私の考えでは、違う。町の中心では値段が高い、それはそうね、でも郊外の家の方がずっと安いというわけではない。

女性の考えでは：

- a)誰も町の中心で家を買いたくない
- b)町の中心では多すぎるビルが建てられている
- c)郊外に住む方がずっと安い

筆記

PARTE III (N59 – N65)

【訳】リッソーネ——それより少し大きただけだが、それよりずっと名が通っている、とても有名な F1 サーキットの所在地モンツァから遠くない、ロンバルディア州の小都市——は、もうかなり前から「家具の都」として、イタリア国内外で知られていた。しかし今日、それをさらに有名にしたのは、40 歳のラーウラ・メージだった。フィットネスのインストラクターであるラーウラが、何年も続いたけれども、結婚に至る前に口論で悲しく終わったラブ・ストーリーの後、しようと決めたのは……1 人で結婚することだった。ということは、招待客なしで？ 全く違う。パーティーに、彼女の家族、多くの友人と知人は欠けていなかった。一方、重大な欠席者は新郎だった。実はラーウラは、イタリア初の「シングル・ブライド」だ。「素敵な結婚式はずっと私の夢でした」と、ラーウラはインタビュアーたちに打ち明けた、「でも長いラブ・ストーリーの破局の後、私は悟りました、別の男性とゼロから再スタートするのは、自分にとってとても難しいだろうということが。とはいえ私の夢を諦めたくありませんでした。」結局、最終的に(少なくとも迷いの後で)ラーウラは 1 人だけの結婚を計画し、白のドレスと 5 段のウェディング・ケーキまで準備して、それをお祝いした。もちろん、場所は教会ではなかった。アグリトゥリーズモ(農園ホテル)だった。しかし、付き添いの少女、立会人がいて、金の結婚指輪、『千一夜物語』のような食事があり、そして見事に最後を飾るのは、引き出物とライス・シャワーの後の、「ハネムーン」への出発だった。イタリア初の「シングル・ブライド」になるというのは、いずれにしても、彼女にとって簡単な選択で

はなかった。「両親、女友達、知人、皆が私にアドバイスをくれて、よく考えるようにと千回繰り返して言いました。」もちろん、法律的にも宗教的にも何の価値もない結婚だが、ラーウラにとってそれはどうでも良い。「私たち 1 人 1 人は、他の人たちを愛するも先に、まず自分自身を愛するべきだと、私は思います。結局のところ、「青の王子」(理想の夫)がいなくても、おとぎ話を生きることはできます。」

(『ラ・レプブリカ』紙、2017 年 9 月 22 日付記事に加筆)

- N59 b** **【正答率】49.4%**
【訳】リッソーネの町はモンツァと同じくらい名が通っている
- N60 b** **【正答率】82.6%**
【訳】ラーウラはすぐに再婚することに決めた
- N61 a** **【正答率】58.3%**
【訳】結婚式には多くの招待客がいた
- N62 a** **【正答率】71.5%**
【訳】ラーウラは素敵な式を強く望んでいた
- N63 b** **【正答率】85.9%**
【訳】結婚式は田舎の小さな教会で行われた
- N64 a** **【正答率】69.0%**
【訳】その決心をするのは彼女にとって簡単ではなかった
- N65 b** **【正答率】35.2%**
【訳】ラーウラによると、人は自分自身だけを愛する必要がある